

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名： 大学院医歯薬学総合研究科(薬学系)

| 目 標 | 目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組) |
|--|--|
| ①教育領域 | 自己評価 |
| ①-1 目標 | ①教育領域の ①-1 目標については、ほぼ達成できた(客観的指標参照)。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○教育の実施体制(組織的なFD, 教員のインセンティブ向上を含む)について ・新設された博士課程および改訂された博士後期課程の新カリキュラムを実施し、検証する。 ○教育方法・内容について ・新設された博士課程および改訂された博士後期課程での新カリキュラムを実施し、検証する。 ○教育の成果(学習の成果, 卒業後の進路)について ・「厳格な学位授与体制」を構築・強化する。 ○学生支援について ・相談委員会を設け、学生の生活・学習支援を行う。 ○その他 | 新たに生じた課題としては、以下と捕らえている。 1. 平成25年度から実施の博士前期課程の カリキュラム改訂に対する検証・評価 が必要である。 2. 博士・修士論文発表会や学位審査委員会の厳格化を目指した検証・評価として、従来の研究内容に大幅な改善傾向が見られた。一方で、一部ではあるが、学位授与に関する旧態依然とした考え方や科学的とは程遠い内容が垣間見られたのは残念であり、 学位審査の厳格化を更に進める の必要性がある。 |
| ①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ファカルティ・ディベロップメントの体制、内容・方法や実施状況、その結果による ○教育課程の内容・構成 ○学生が受けた様々な賞の状況 | |
| ②研究領域 | 自己評価 |
| ②-1 目標 | ②研究領域の ②-1 目標については、ほぼ達成できた(客観的指標参照)。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○研究水準及び研究成果等について ・特別経費プロジェクト「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」を一層発展させる。 ・おかやまメディカルイノベーションOMICにおける分子イメージング技術による創薬研究を推進し、医歯薬の連携を強化しつつ、理研との連携も加えて、大学院教育・研究の充実を図る。 ・インドにおける新興・再興感染症拠点を基盤として、感染症研究の進展を図る。 ○研究実施体制等の整備について ・他の医療系(歯学系・医学系)との研究交流をさらに活性化し、新たな研究シーズの発見とその臨床応用に向けた取り組みを開始する。 ・大型研究資金獲得のための方策を他の医療系(歯学系・医学系)と連携し協議する。 ・科研費等の外部資金獲得に努める。 ○その他 ・価値の高い研究業績を挙げそれをホームページ等で広報する。 ・研究遂行におけるコンプライアンスを遵守する。 | 新たに生じた課題としては、以下の一点に集約されると捕らえている。 ●研究内容や外部資金執行に関する コンプライアンス遵守の徹底化 |
| ②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○論文・著書等の研究業績や学会での研究発表の状況 ○競争的外部資金受入状況 ○学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(SSリスト) ○若手教員、女性教員、外国人教員の採用状況 ○共同利用・共同研究の実施状況 | |
| ③社会貢献(診療を含む)領域 | 自己評価 |
| ③-1 目標 | ③社会貢献領域の ③-1 目標については、ほぼ達成できた(客観的指標参照)。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○地域社会との連携、社会貢献について ・高校生や一般人に薬用植物園を公開し、社会の薬用植物への関心や理解を高める。 ○国際交流・協力、外国人研究者の雇用について ・中国・内蒙古大学、昆明植物研等との難治性感染症プロジェクトを通じた教育研究交流を行う。 ○その他 ・薬剤師や一般人を対象に薬学公開講座を開催し、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上に努める。 | 本目標を継続的に達成できていれば、本領域に、重篤な問題は生じないものと考えられる。ただし、新たに生じた課題としては、病院薬剤師および薬局薬剤師との 教育・研究面における双方向的連携 が必要と考える。 |
| ③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○公開講座の実施状況 ○大学の地域貢献・国際貢献への協力 | |
| 【総括記述欄】 | |
| 学生および教員の研究力アップを目指した組織づくりを進めてきた。教員の栄転や学生の学術振興会研究員への採用も確実に増してきている。この方向でも改革をさらに進めておく必要がある。医歯薬学や他の大学他研究科との連携もすすめており、今後の成果が期待できる。 | |